

# 道の駅「よつくら」開設に向けた先進事例調査

福島高専 フェロー ○金子研一  
 福島高専 正会員 松本行真  
 福島高専 高橋雅也  
 四倉ふれあい市民会議 佐藤雄二

## 1. はじめに

国道6号線沿い、四倉漁港区域（福島県いわき市）にある物産館を道の駅としてリニューアルする予定である。平成22年7月のオープンを目指し、先進事例を参考にするために平成20年11月に2日間の休日を利用して南房総を中心とする12の道の駅を視察した。大型バスを利用し12の施設を巡ったため、1箇所当たりの滞在時間は30分～1時間程度である。道の駅には「休息」「情報発信」「地域の連携」の三つの機能が求められているが、ここでは情報発信について調査した結果を報告する。

## 2. 道の駅が提供する情報

道の駅「登録・案内要綱」によれば、施設には駐車場と清潔なトイレのほかに道路及び地域に関する情報を提供する案内所又は案内コーナーが備わっていることが要求されている。さらに運用方針として以下の情報提供を積極的に行なうこととされている。

- (1)道路情報及び近隣の「道の駅」情報
- (2)近隣地域まで含めた観光情報
- (3)緊急医療情報
- (4)その他利用者の利便に供する情報

## 3. 南房総の状況

道の駅の情報発信状況を表-1にまとめた。

表-1 情報の発信状況

### (1) 看板

周辺の案内が大型の看板として施設の外に設置されていたのが4件、屋内に設置されたものが1件あった。いずれもイラストが描かれていてわかりやすい。「白浜野島崎」では屋内に大型ホワイトボードによる掲示があり、必要な情報を直ちに書き入れることができるといったメリットを感じた

情報の種類	駅名											
	きよなん	とみやま	とみうら	南房パラダイス	白浜野島崎	ちくら	ローズマリー	鴨川オーシャン	きみつ	くりもと	いたこ	たまつくり
屋外看板(地図)		○		○		○				◎		
屋内地図	○	○			○			○	△		◎	
パソコン端末	×	◎	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○
大型スクリーン			○					○			○	○
ポスター(近隣)	○	○	△	△	○	○	○	○	○	○	○	△
ちらし(近隣)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

○:あり ◎:複数 ×:なし △:掲示はあるが近隣情報ではない

が、場所の大きさのわりに書き込み情報が少ないといったデメリットもある。壁に地図会社が販売している千葉県全図などが貼ってあるケースでは、文字も小さく眺める人はわずかであった。ただ、「とみやま」のようにローケースで展示(写真-1)してあると情報を確認しやすいためか利用されていると感じた。屋内の情報は雨天や夜間には大いに利用されるので、設置可能なら両方にあった方が良い。

### (2) ディスプレイ

大型の液晶画面が4件、パソコンだけの設置が6件であり、全く無いのが1件であった。大型画面では無声でTV放送がたれ流されているものが2件、1件は「地震のしくみ」を説明していた。大型画面の場合、常に何かを映しだしていないと寂しいので、設置した場合どのように利用し続けるのかしっかり計画を立ておかねばならない。大型画面があるところには、わきに壁に埋め込み形の小型のモニターが設置してあるケースが多く、交通情報など一方的に放映していたが、あまり見られていない状況であった。

パソコン端末は、電源が入っていないケースもあり、「インターネットとして利用しないでください、」と表示されているものもあった。概して利用されていないケースが多いなかで、椅子があり2台置いてある「とみやま」は使いやすそうだった(写真-2)。ただ、マウスで「お気に入り」やアイコンから必要な情報を

**Key Words** 道の駅, 四倉, 道路情報, タッチパネル, 南房総

連絡先: いわき市平上荒川字長尾30 福島工業高等専門学校 TEL0246-46-0829 FAX0246-46-0843



写真-1 展示ケース(とみやま)

写真-2 2台のパソコンと椅子(とみやま)

写真-3 パネル展示

求めるのは容易ではなく、常に ON になっていてタッチパネルから情報を得るスタイルが親切かと思うが、タッチパネルの採用は2件と少なかった。

### (3) ポスター

コーナーを設け整然と貼っているところから、空いている壁のスペースにポスターで埋め尽くすタイプまで千差万別である。ポスターの内容としては鉄道の駅などで貼られている観光ポスターが多かった。中には山梨県の観光案内(河口湖、風林火山など)があり、観光ポスターの展示に疑問を感じた。「きょなん」のように有孔ボードに近隣の店の情報が A3 判で貼られているものもある。「いたこ」ではボードに四季を通した写真が展示されていて、その手造り感が良かった。四季の情報を流すことで再度訪問したいという動機付けができる。また、手作りパネルの代表であるアルミフレームに入ったパネルの展示は「白浜野島崎」だけであった(写真-3)。「旅の思い出にこの景色を見に行きませんか」というキャッチフレーズが印象的である。

### (4) ちらし

少ない駅では5種類から、多いところでは47種類のちらしが置かれていた。道の駅ガイドマップ、道の駅地図(千葉)、道の駅 99 など近隣の道の駅の情報から市報、JAF、自動車教習所の案内まで多彩である。オリジナルのちらしを作成していたのは8件と多く、ローズマリー通信のように旬刊で発行しているものもあった。オリジナルのちらしの場合、A3判を二つ折り、A2判を六つ折りといった具合に折りたたむケースが多く、内容は近隣のマップと観光案内が主で、年間のスケジュールをあわせて紹介しているものもあった。みかん狩り、メロン狩りなど体験に関する勧誘のちらしもあり、道の駅でこれらの受付まで行なっている。

## 4. 考察

### (1) 道路情報

南房総地区では、道路情報を必要としないせいか参考となる例は少なかったが、四倉は長距離ドライバーにとって道路情報の重要度は高いと考える、国土交通省道路局のホームページに検索して探し当てるより、渋滞情報、路上工事情報、交通規制、道路気象が一方的に垂れ流されるシステムの方が好ましいのではないだろうか。道の駅よりも高速道路の SA に設置されているディスプレイが参考になった。

### (2) 近隣の道の駅情報および観光情報

観光情報などは、看板、ポスター、ちらしという全てのメディアが利用されている。共通して、今の情報だけではなく、何月になれば体験可能かといった情報、四季の案内をすることで、また来ようという気にさせる。ポスターは A1 サイズの手作りパネルを壁に吊り下げることでタイムリーな情報を発信しやすい。

### (3) 緊急医療情報

AED の設置および近隣の薬局のポスターがあった程度であり、四倉でも緊急医療情報は必要無いと考える。

## 5. おわりに

市民会議ではワークショップを開催して「情報の整備」に関して意見を集約している状況である。なお、本事業は農水省の「平成 20 年度広域連携共生・対流等整備交付金」事業に採択されている。